

交流ワークショップ 実施校募集！

2024年度は「②同一校内の特別支援学級と通常学級の交流ワークショップ」に加え、「①他校の特別支援学級 / 学校との交流ワークショップ」の実施校を募集いたします。

※応募状況次第では、①をご希望の学校を優先的に採択させていただく場合がございます。

① 他校の特別支援学級 / 学校との交流ワークショップ

限られた人間関係の中で生活しがちなので、
いろいろな人たちと交流
できたら…

特別支援学級 / 特別
支援学校の先生から
耳にすることが多い

この課題に向き合い、子ども
たちの交流や体験の機会を
つくる目的で、複数の学校の
特別支援学級 / 学校による
交流の機会を計画します！

- **交流学校** 2～3校ごとに交流
- **実施日数** 各校3～7日間程度。うち、交流ワークショップは1～2日間程度を想定。
- **交流日程** 最終日に各校の取り組みの成果を互いに見せ合う、または中間日に交流。
- **交流方法** 対面またはオンライン。
- **学校の組合せ** 実施希望校と個別に連絡をとりながら、当NPO（芸術家と子どもたち）でマッチング。ただし、交流希望相手先がすでにある場合はその旨、実施申込書に記載してください。
- **アーティスト** 複数校が同一アーティストで実施・交流する場合と、別々のアーティストで実施・交流する場合の2パターンを想定しています。

新しい取り組みですので、学校の先生方と随時十分に相談してコーディネートします。

●ワークショップ (WS) スケジュール例

打合せ
(2回)

各学校の特別支援学級担任
・当NPOスタッフ、アーティストで内容を打合せ

子どもたちの様子や特徴、
先生たちの要望などをヒアリン
グ。三者間でどんな活動に
するのかをすり合わせると
ともに、交流方法等を相談。

1～4
日目

それぞれの特別支援学級で
一日2コマ×4日間程度WS実施

それぞれの学級ごとにアー
ティストとの関係をつくり、
活動に慣れていく。アーティ
ストは子どもたちの特徴を
掴み次に活かしていく。

5日目

2つの学校の特別支援学級
合同で2コマ程度WS実施

どちらかの学校に集まる、
もしくはオンラインで実施。
各成果を見せ合うとともに、
一緒に活動する。

② 同一校内の通常級との交流ワークショップ

特別支援学級と通常学級の
「交流アーティストワークショップ」
をインクルーシブ教育の一環として実施

ワークショップを通じて子どもたちが
「健常児」と「障がい児」という
枠を超えて向き合える「交流及び
共同学習」の場づくりを行います。

●ワークショップ (WS) スケジュール例 【日数は2～3日を想定】

打合せ
(2回)

特別支援学級及び通常級担任・当NPOスタッフ、アーティストで内容を打合せ

子どもたちの様子や特徴、先生たちの要望などをヒアリング。三者間でどんな活動にするのかをすり合わせる。

1日目

特別支援学級 (1～6年生)
WS (2コマ)

導入回として、まずは特別支援学級の児童がアーティストとの関係をつくり、活動に慣れていく。アーティストは子どもたちの特徴を掴み次に活かしていく。

2日目

特別支援学級 (1～6年生) WS (1コマ)
特別支援学級 (1～6年生) + 2年1組 合同 WS (1コマ)

3日目

特別支援学級 (1～6年生) + 2年2組 合同 WS (1コマ)
特別支援学級 (1～6年生) + 2年3組 合同 WS (1コマ)

特別支援学級の児童が十分に活動に慣れ、自信をもって取り組めるようになったところで、通常学級との合同WSを実施。特別支援学級の子どもが先行して体験していることをいかし、特別支援学級在籍児が通常学級への見本をみんなの前で披露する場合も。

交流ワークショップの実施例については、こちらをご覧ください。

https://www.children-art.net/post_column/post_column-11156/



各校、各学級の要望を伺いながら、アーティストを選定し、ワークショップの内容や進め方を検討していきます。

また、全ての回においてワークショップ終了後、放課後などの時間に特別支援学級 (及び通常学級担任) とアーティスト、当NPOスタッフでワークショップの振り返りと次回に向けての打ち合わせを実施します。

交流ワークショップ
実施校募集!